

－「英語教育の在り方に関する有識者会議報告（概要）」に見る、これからの外国語教育－

現時点での、3・4年生外国語活動と5・6年生英語科の姿を見てみましょう。

3・4年外国語活動～5・6年英語科～中学校英語科の目標イメージ

3・4年外国語活動

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しませながら、コミュニケーション能力の素地を養う。（現行の外国語活動の目標の文言と一致していますね。音声中心・体験重視です。）

5・6年英語科

外国語を通じて、言語や文化について体験的に理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、身近で簡単なことについて外国語の初歩的な表現に関わって聞くことや話すことなどのコミュニケーション能力の基礎を養う。

中学校英語科

外国語を通じて、言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図るとともに、身近な話題についての理解や表現、簡単な情報交換ができるコミュニケーション能力を養う。

5・6年生で教科「英語」になるということは、中学校との接続を意図した系統性が明確になるということですが、4技能をバランスよく身に付けることを目標とした中学校英語に対し、5・6年の英語ではあくまでも2技能中心であることがわかります。（下線は相馬）これに対し中学校では、「聞くこと・読むこと」をまとめて「理解」、「話すこと・書くこと」をまとめて「表現」とし、さらにこれまであった「基礎」という言葉がなくなり、「情報交換ができる」という言葉が入ってきています。つまり中学校英語では、2技能以上が統合した・運動した言語活動を行うことが求められるということになります。

5・6年英語科としての目標イメージ

(1) Listening ～聞くこと～

身近で簡単なことについて話される初歩的な英語を聞いて、話し手の意向などを理解できるようにする。

(2) Speaking ～話すこと～

身近で簡単なことについて、初歩的な英語を用いて自分の考えなどを話すことができるようにする。

(3) Reading ～読むこと～

アルファベットや単語に慣れ親しみ、英語を読むことに対する興味を育てる。

(4) Writing ～書くこと～

アルファベットを書くことに慣れ親しみ、英語を書くことに対する興味を育てる。

まず言えることは、「教科になっても音声中心の学習であることに変わりはない」ということです。確かに4技能に関する目標が示されることにはなりますが、「読むこと・書くこと」については、全体的に興味を育てることを目標とし、アルファベットについては、4線にきちんと書いて読めるようにする、というあたりで検討されているようです。（下線は相馬）

3・4年外国語活動と5・6年英語科の教材について

3・4年外国語活動の教材

- ・コミュニケーション能力の素地を養う
- ・外国語への慣れ親しみ
- ・言語や文化への気付き
- ・コミュニケーションを図ろうとする関心・意欲・態度

⇒同じような表現を繰り返し聴く／表現が使われている場面がすぐにわかる／先生や友だちとともに学習し、楽しめる／中学年の発達段階に合った／高学年の学習につながる、そうした教材が準備されます。（※Compass No16参照）

5・6年英語科の教材

- ・アルファベット文字の認識

⇒アルファベット文字を認識する教材が準備されます。

- ・日本語と英語の音声の違いやそれぞれの特徴への気付き

⇒アルファベットに音があることに気付く／アルファベットの音を認識する／単語を認識する、そうした教材が準備されます。

- ・文構造への気付き

⇒これまで聞いた言ったりしてきた表現を可視化した教材が準備されます。